

鳥取県は過去何度も突然の大災害に見舞われ、甚大な被害を受けました。これらの経験を活かしていくことが大切です。次に起こる災害に備えるため、日南町と鳥取大学、鳥取県栄養士会が連携して、防災に役立つ情報を毎月お届けしていきます。



鳥取県西部地震（平成12年10月）

震度6
(M7.3)

その日は車を公民館に移動させて（中略）車で寝ました。晩ご飯は、ジャーにご飯があったので、釜ごと持って出て、あとはふりかけなんかを持って、皆で食べました。



コンビニの商品もすごい勢いでなくなっていたみたいで、あるだけ買ってきて、みんなでそれを食べ（中略）ました。

晩ご飯をどうするかと考えた時に、水が無かったのでご飯も作れなくて、カップ麺を食べようって。でもお湯がポットにちょっとしかなかったので、どうしようって言ったのを覚えています。



地震直後、ガスを使うのが怖くて、何日か（中略）カセットコンロを使って外で煮炊きをしました。水が止まってしまって、



親戚の家から汲んできて使っていたので、水のありがたさを感じました。



水道が復旧するまではトイレができなかったし、机の上に埃が溜まっていたも、雑巾すら洗えない状況でした。たまたま隣のお宅が地下水の水道が出ていたので、そこで洗わせてもらっていました。



出典：「被災ママと関係者に聞く！子連れ防災～鳥取県西部地震体験インタビュー」（鳥取県西部地震展示交流センター／日野ボランティア・ネットワーク）をもとに鳥取大学上田研究室作成 イラスト：いちひろゆきさん(@bot39507348)

東日本大震災の事例

- スーパーで食料調達できたのは、発災後**数日**経ってから。
- 食料の家庭備蓄を行っていた家庭は少なく、発災日の夜は**自宅にあった食料**や近所の炊き出しで食事。
- 避難所に地方公共団体の**食料備蓄があったのは全体の3割程度**。
- 発災日に避難所に届いた食料のほとんどは他地区**住民の協力による炊き出し**のおにぎり。
- 自宅から避難所に食料を持参した人は**2割程度**。

出典：「東日本大震災における食料へのアクセス実態調査（平成25年3月）」（農林水産省）

熊本地震の事例

- 多くのスーパーが営業中止。
- 9日**経っても約**2割**のスーパーが営業を再開できなかった。

こげにかかるだ?!



出典：「講演用資料 災害時に備えて食品の家庭備蓄を始めよう」（農林水産省）
(<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/foodstock/kouenyou.html>) (2022/3/7) を加工して作成

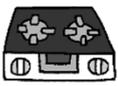
震度6弱 (M6.6)

鳥取県中部地震

わが町は、平成12年2月に自主防災会を立ち上げました。その5年前に発生した阪神・淡路大震災のテレビ映像を見て大きな衝撃を受けました。それは、同時多発災害です。火災が多発し、多くの死傷者が発生し、町が壊滅状態です。被災した住民は行政に不満を訴え、行政も被災し、それらに対応しきれなく・・・、全国から届いた救援物資はすべての避難所に届くことなく山積の状態。(中略)

「その日」のために被災者自らが行動して、消火活動、救助活動、被災者の救援、避難所の運営などを自ら行うために、自主防災会を結成し、防災訓練や、防災資機材の整備、備蓄食料の確保を行い、町内で発生した火災では、初期消火や炊き出しを行い、洪水警報などが発令されたときは河川や町内の見回りを行ってきました。

そして、自主防災会結成16年目に「その日」がきたのです。



ライフライン復旧までの日数

出典:「平成28年10月21日鳥取県中部地震記録誌」(鳥取県) (<https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1167305/chubujiisinkirokushi.pdf>) (2022/3/7)

	電気	ガス (LP・都市)	水道
鳥取県中部地震 (平成28年10月)	3時間半	3日	3日
東日本大震災 (平成23年3月)	3日後に80% 復旧完了に 約3か月	約2か月	1週間で約57% 復旧完了に 約6か月半
西日本豪雨 (平成30年7月)	約7日後	約1日	断水解消に 約1か月 飲用としての復 旧完了に約2か月

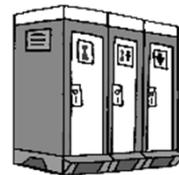
鳥取県中部地震で 提供された物資

発災 当日	アルファ化米 飲料水、パン おにぎり等
翌日 以降	弁当等
10日 目～	スープ、 カップみそ汁

出典:「講演用資料 災害時に備えて食品の家庭備蓄を始めよう」(農林水産省) (maff.go.jp) (2022/3/7)
「平成28年(2016年)鳥取県中部を震源とする地震に係る被害状況等について(12月21日)」(内閣府) (<http://www.bousai.go.jp/updates/h281021jishin/index.html>) (2022/3/7) をもとに鳥取大学上田研究室作成

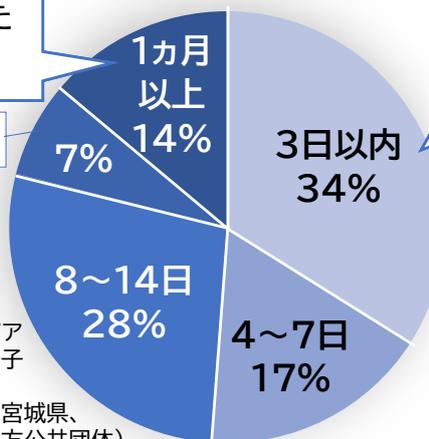
東日本 大震災 では

仮設トイレが避難所に行き渡るまでに要した日数



最も日数を要した自治体は**65日**

15~30日



3日以内と回答した自治体は
わずか**34%**

<アンケート調査>
実施:名古屋大学エコトピア
科学研究所 岡山朋子
協力:日本トイレ研究所
回答:29自治体(岩手県、宮城県、
福島県の特定被災地方公共団体)

出典:「避難所におけるトイレの確保
・管理ガイドライン(平成28年4月)」
(内閣府防災担当)をもとに作成

3日も水道が使えなんたら、
うちはどげすーだ...



わしゃ、いざとなりゃ
畑ですーだわ。でも、
ぼあさんは外ででき
ーだーか?
夜中や大雪の時は...?

では実際に、
どのような備えが
必要なので
しょうか。
次回から
具体的にお伝え
していきます。



ご意見・ご感想

はこちらまで

